

6 食育について

（1）食育への関心度

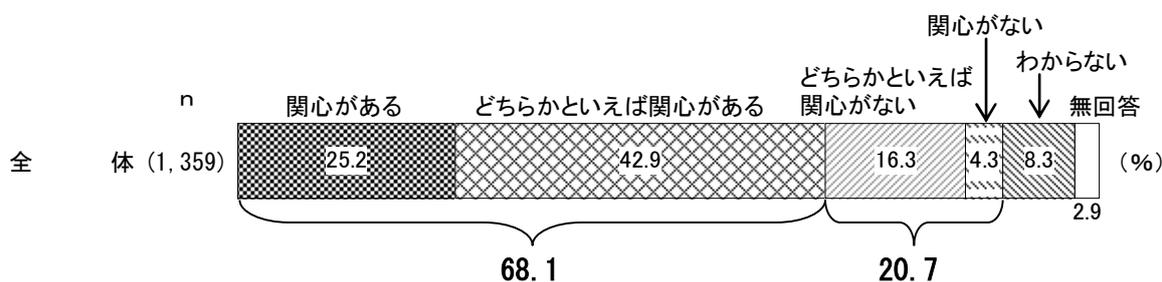
◇『関心がある（計）』が約7割

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子どもから高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

今後の食育推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問17 あなたは、「食育」に関心がありますか。（○は1つ）

＜図表6-1＞食育への関心度



「食育」に関心があるか聞いたところ、「関心がある」（25.2%）と「どちらかといえば関心がある」（42.9%）を合わせた『関心がある（計）』（68.1%）が約7割で高くなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」（16.3%）と「関心がない」（4.3%）を合わせた『関心がない（計）』（20.7%）は2割となっている。（図表6-1）

【地域別】

地域別にみると、『関心がない（計）』は“安房地域”（60.9%）が6割、“海匝地域”（35.9%）が3割台半ばで高くなっている。（図表6-2）

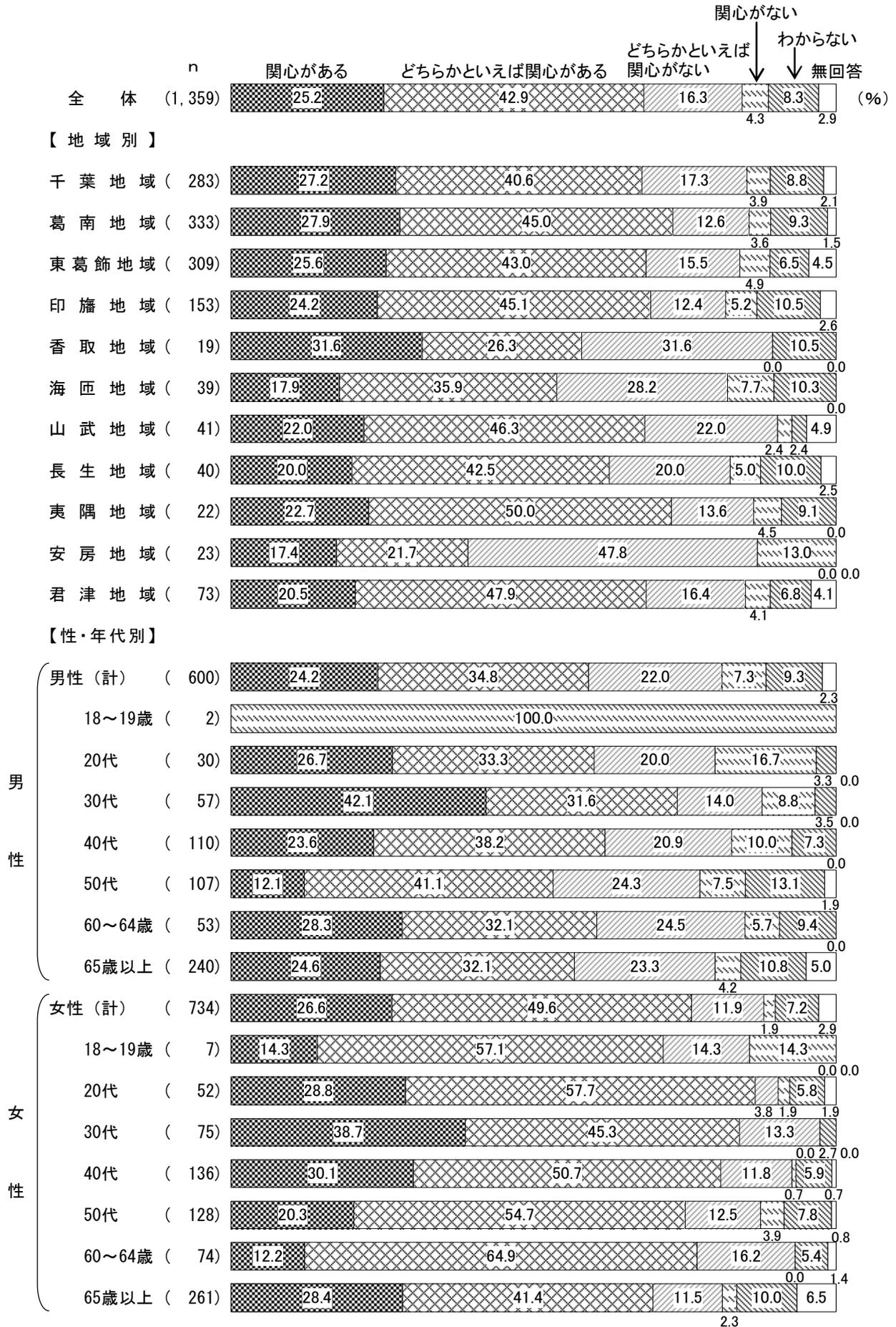
【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の20代（86.5%）、女性の30代（84.0%）が8割台半ば、女性の40代（80.9%）が8割で高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は男性の20代（36.7%）が3割台半ば、男性の50代（31.8%）が3割を超え、男性の40代（30.9%）が3割、男性の65歳以上（27.5%）が約3割で高くなっている。

（図表6-2）

<図表6-2>食育への関心度／地域別、性・年代別



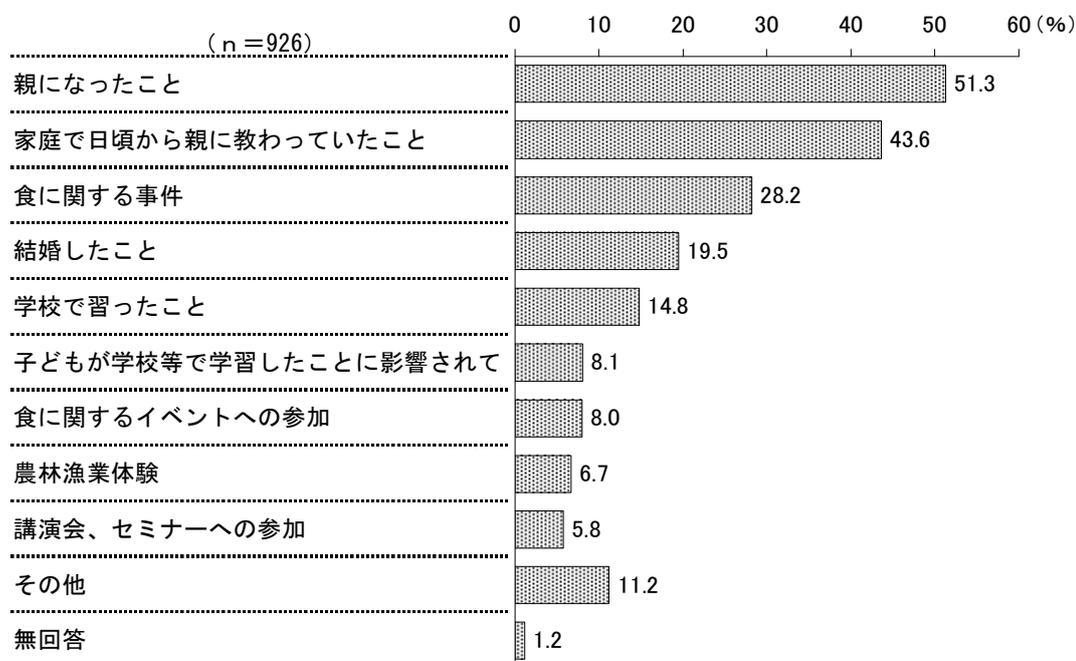
（1-1）食育に関心を持ったきっかけ

◇「親になったこと」が5割を超える

（問17で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）

問17-1 あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）

<図表6-3>食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



「食育」に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した926人を対象に、食育に関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」（51.3%）が5割を超えて最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」（43.6%）、「食に関する事件」（28.2%）、「結婚したこと」（19.5%）が続く。（図表6-3）

【地域別】

地域別にみると、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は“印旛地域”（53.8%）が5割台半ばで高くなっている。

「食に関する事件」は“君津地域”（42.0%）が4割を超えて高くなっている。

「学校で習ったこと」は“長生地域”（36.0%）が3割台半ばで高くなっている。（図表6-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の60～64歳（70.2%）が7割、女性の40代（66.4%）、女性の50代（63.5%）が6割台半ばで高くなっている。

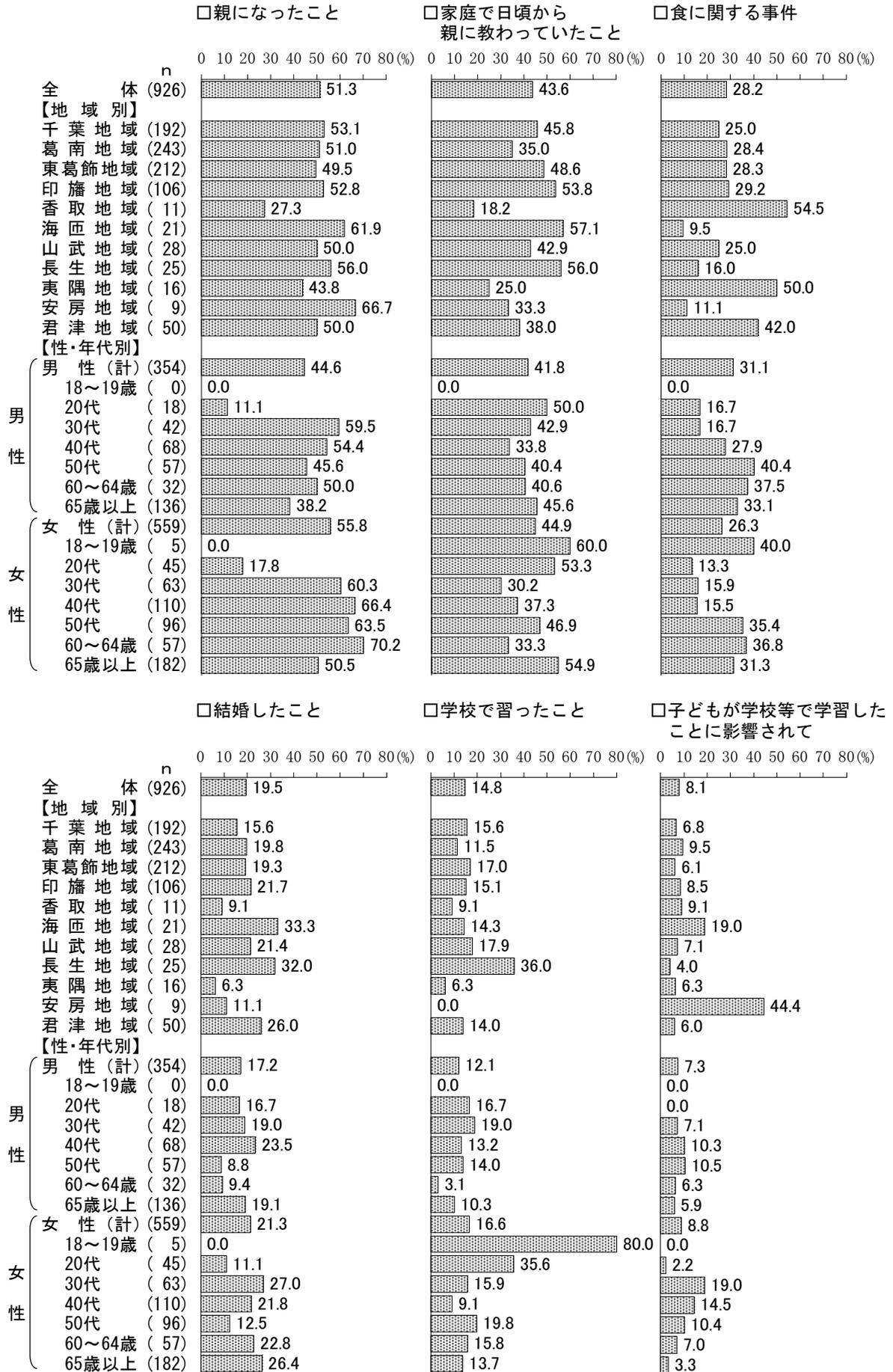
「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は女性の65歳以上（54.9%）が5割台半ばで高くなっている。

「食に関する事件」は男性の50代（40.4%）が4割で高くなっている。

「結婚したこと」は女性の65歳以上（26.4%）が2割台半ばで高くなっている。

「学校で習ったこと」は女性の20代（35.6%）が3割台半ばで高くなっている。（図表6-4）

<図表6-4>食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

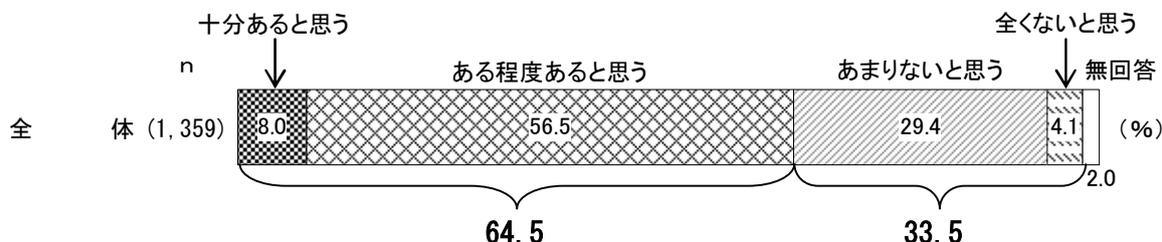


（2）健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無

◇『ある（計）』が6割台半ば

問18 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。（○は1つ）

<図表6-5>健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無



健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うか聞いたところ、「十分あると思う」（8.0%）と「ある程度あると思う」（56.5%）を合わせた『ある（計）』（64.5%）が6割台半ばで高くなっている。

一方、「あまりないと思う」（29.4%）と「全くないと思う」（4.1%）を合わせた『ない（計）』（33.5%）は3割台半ばとなっている。（図表6-5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-6）

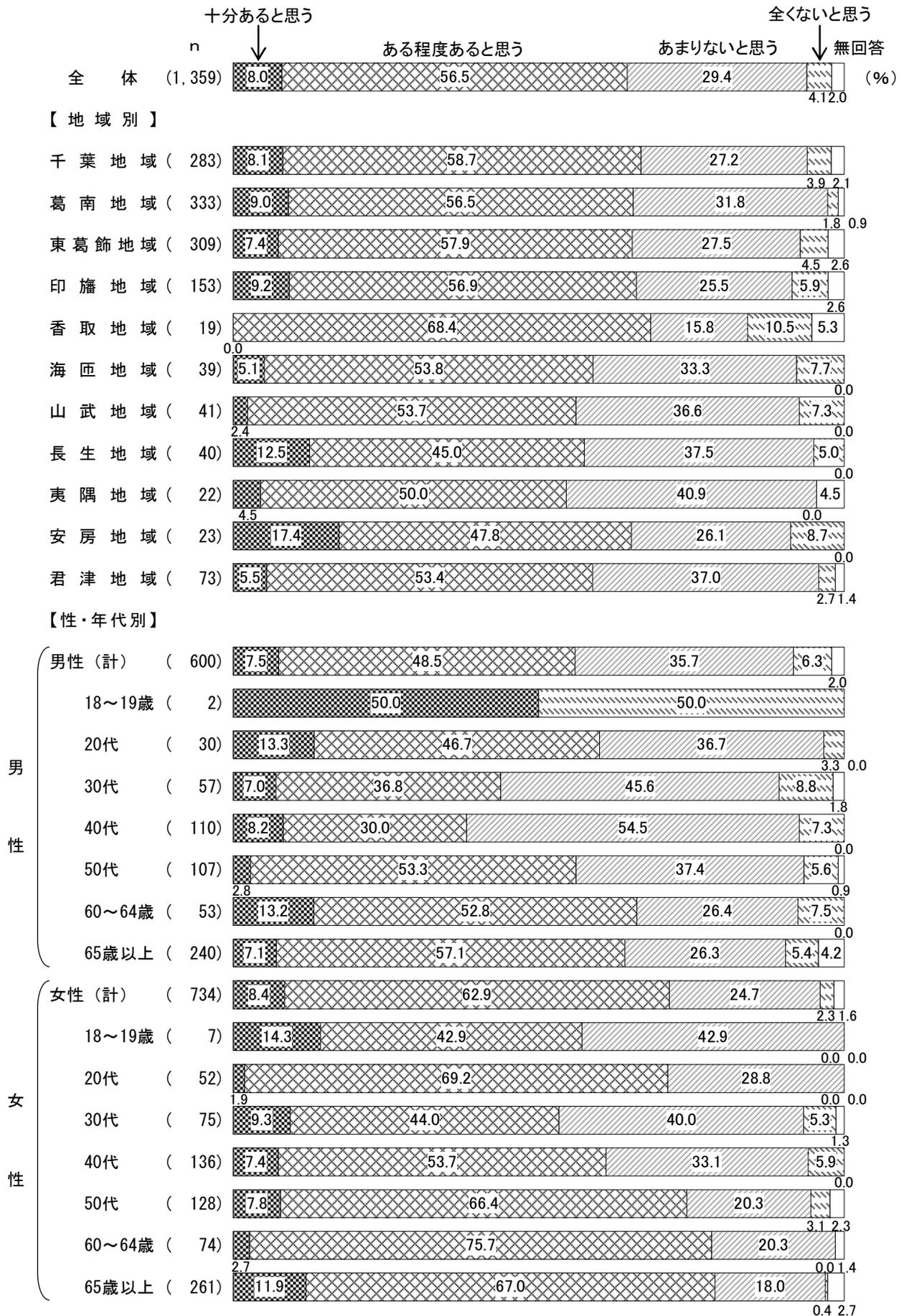
【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある程度あると思う」は女性の60～64歳（75.7%）が7割台半ば、女性の65歳以上（67.0%）が約7割、女性の50代（66.4%）が6割台半ばで高くなっている。

一方、「あまりないと思う」は男性の40代（54.5%）が5割台半ば、男性の30代（45.6%）が4割台半ば、女性の30代（40.0%）が4割で高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6>健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無

／地域別、性・年代別



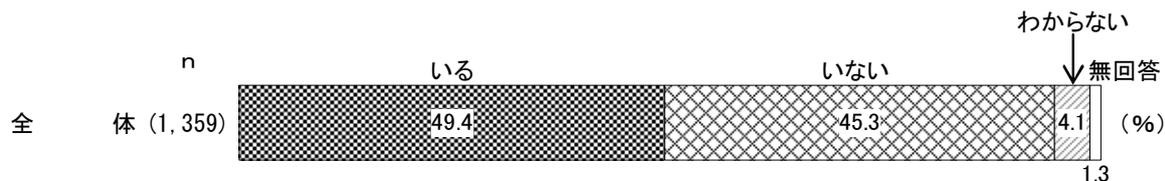
（3）農林漁業体験の参加状況

◇「いる」が約5割

問19 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（※）に参加したことがある方はいますか。（○は1つ）

（※）農林漁業に関する体験例：いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

<図表6-7>農林漁業体験の参加状況



自身又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある方がいるか聞いたところ、「いる」(49.4%)が約5割となっている。

一方、「いない」(45.3%)は4割台半ばとなっている。(図表6-7)

【地域別】

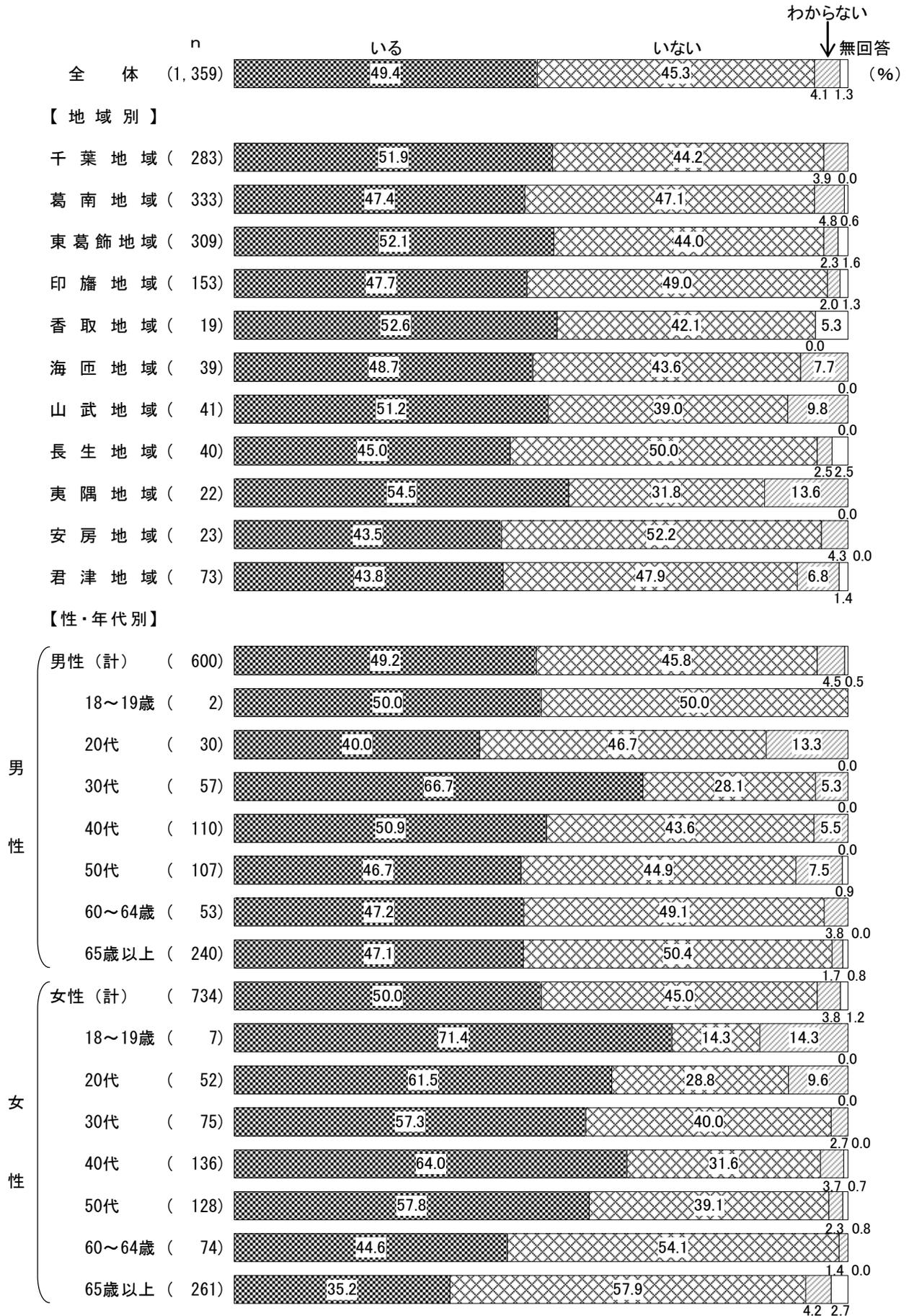
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表6-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は男性の30代(66.7%)と女性の40代(64.0%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「いない」は女性の65歳以上(57.9%)が約6割で高くなっている。(図表6-8)

<図表6-8>農林漁業体験の参加状況／地域別、性・年代別

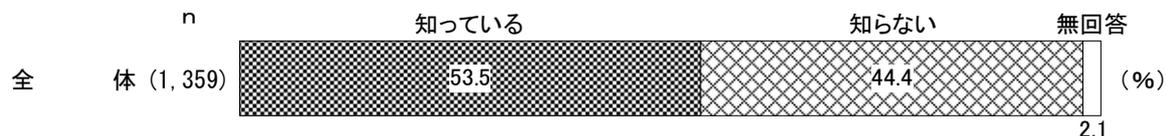


（４）食に関わる文化の認知状況

◇「知っている」が5割台半ば

問20 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（○は1つ）

<図表6-9>食に関わる文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（53.5%）が5割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（44.4%）は4割台半ばとなっている。（図表6-9）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-10）

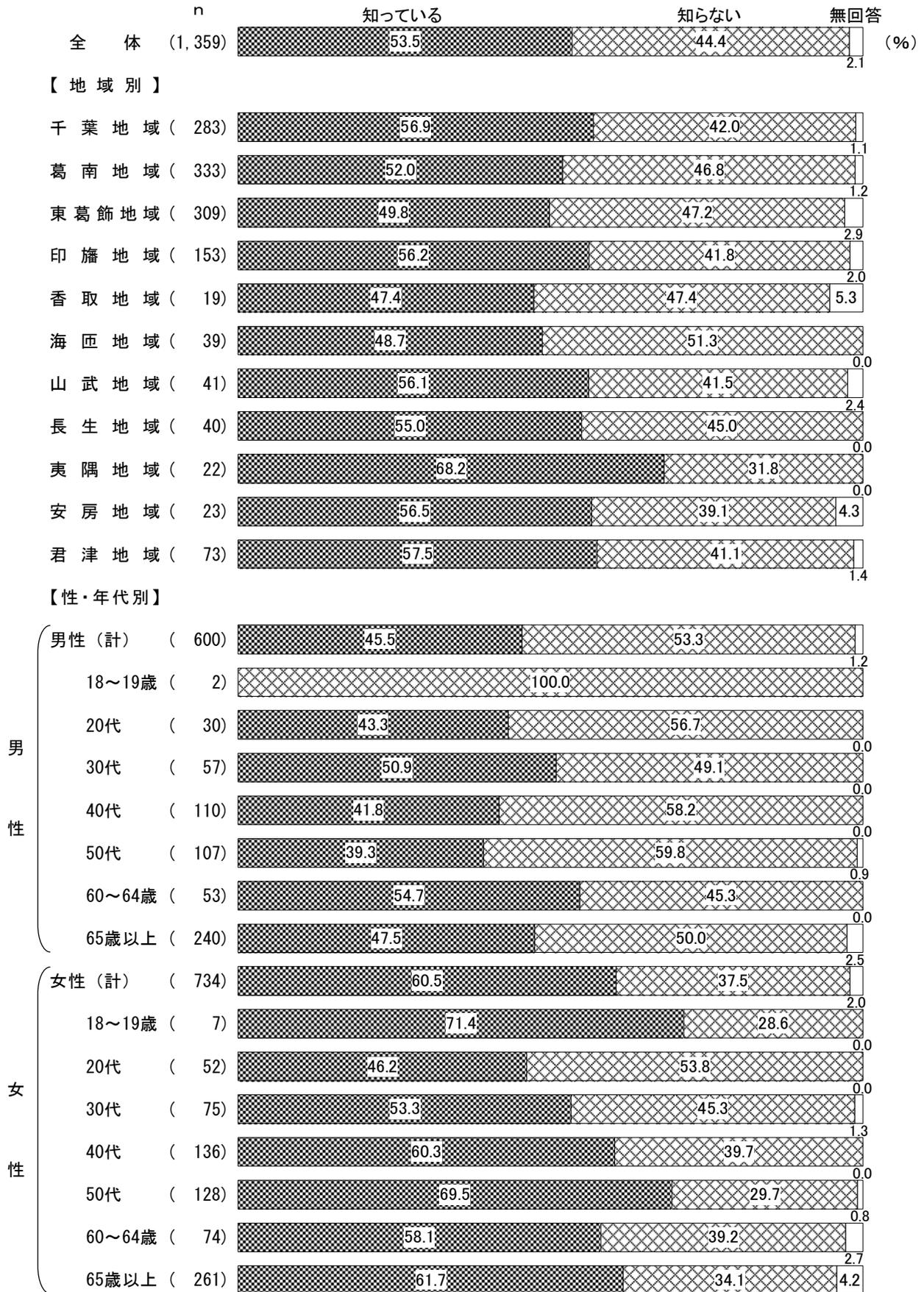
【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の50代（69.5%）が約7割、女性の65歳以上（61.7%）が6割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の40代（58.2%）、男性の50代（59.8%）が約6割で高くなっている。

（図表6-10）

<図表6-10>食に関わる文化の認知状況／地域別、性・年代別



（４－１）食に関わる文化の伝承について

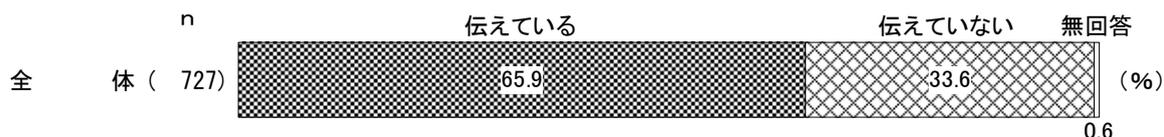
◇「伝えている」が６割台半ば

（問20で「知っている」とお答えの方に）

問20－１ あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。

（○は１つ）

＜図表 6－11＞食に関わる文化の伝承について



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を「知っている」と回答した727人を対象に、地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（65.9%）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「伝えていない」（33.6%）は３割台半ばとなっている。（図表 6－11）

【地域別】

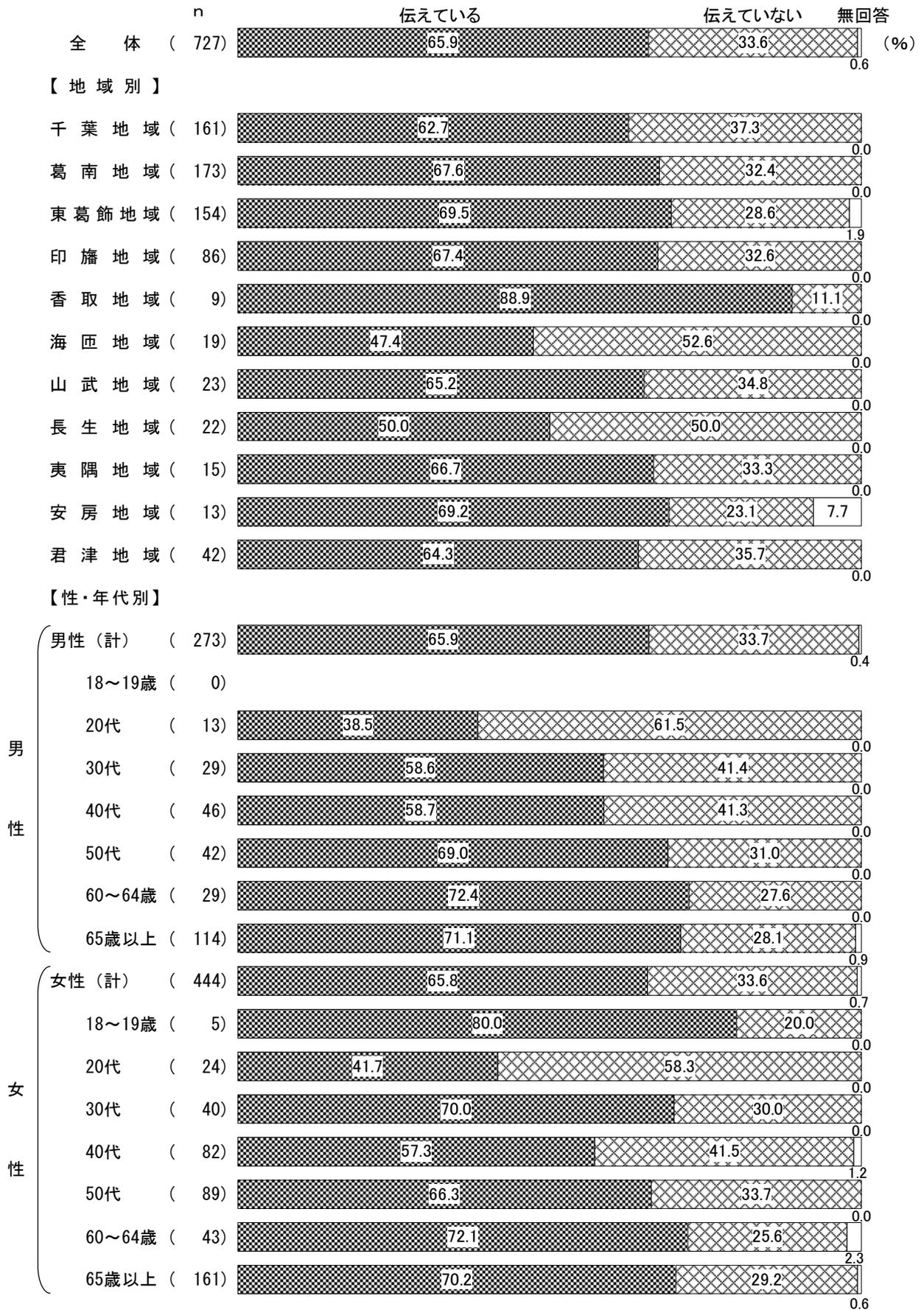
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 6－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えていない」は女性の20代（58.3%）が約６割で高くなっている。

（図表 6－12）

<図表6-12>食に関わる文化の伝承について／地域別、性・年代別



このほかに、「食育について」やここまでの質問（問17～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、133人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「食育について」の自由回答（抜粋）

- そういえば千葉の伝統的な料理・郷土料理を知る機会がなかったから今からでも知りたい。
（女性、20代、君津地域）

- 家庭や学校でも小さい頃から食育についての話し合いをしてほしいと思う。
（女性、65歳以上、君津地域）

- 郷土食など、もっと市や町で広める働きかけをしてはどうだろうか。
（男性、30代、東葛飾地域）

- 小さい頃から農業体験や、自然に触れる機会を多くもつことで食への興味、関心を深めることは大切。
（女性、20代、葛南地域）

- 生きるだけならば、安価な炭水化物のみでも生活できるが、長い目で見れば健康の前借りであり、後の自分にかえってくる。特に子育て世代が、子ども健康や将来のことを思い、気を配り、食育をすすめられるよう、補助、助成、などで手厚くサポートできる体制を作してほしい。
（女性、65歳以上、葛南地域）

- 地域の料理教室など時々やればよいと思う。親子、近隣の人との会話もできる、料理も覚える。
（女性、65歳以上、山武地域）

- 家庭内での団らんを多くとれる様に行政も親子や友人で気楽に参加できるイベントなどを企画できると良いし、サークル育成で行う時に補助金で細かな縛りなどを少なくして活動が多く行える様になると良い。
（男性、65歳以上、千葉地域）

- 食育に取り組みたくても、共働きだとじっくり料理をすることが難しい。働き方を変えればおのずとそういう時間も取れるのではと思う。
（女性、40代、葛南地域）

- 小学校、中学校などの給食を利用して千葉県の郷土料理を出して千葉県のよさをもっと子供達に教えてほしいです。
（女性、30代、印旛地域）

- 文化や価値観が多様化し、そうした様々な背景の人達が周りに増え、ビーガンやハラールなど、健康や作法を超えたセンシティブな問題にもこれからの食育は対応していかなければならないと思います。
（女性、30代、葛南地域）